

令和7年度学校評価結果及び学校関係者評価

飯塚市立上穂波小学校

令和7年度の学校運営及び教育活動について、本校職員が「自己評価」をしました。自己評価結果から本年度の成果と課題を明らかにし、課題については改善策を立てました。このことについて、学校運営協議員の皆様に評価していただいたのが「学校関係者評価」です。地域から信頼され、地域と共にある学校をめざして、この自己評価及び関係者評価結果を来年度の学校づくりにいかしていきます。

評価項目	評価（割合）%				R7	R6	平均点	成果と課題 ○（●）	改善策（◇）	学校関係者評価 （評価に対する意見）		
	4	3	2	1	平均点	平均点						
組織運営	1	各部・係が学校教育目標の具現化に向け、経営の重点に基づいた企画により、校務分掌の遂行にあたっている。	27.8%	66.7%	5.6%	0.0%	3.2	↘	3.4	3.3	○終礼や職員会議において、報告や連絡等がしやすい環境をつくることが出来ていると感じる。 ○教職員間の情報共有が円滑となり、協働体制が強化された。 ○分掌ごとの企画・運営が見通しを持って実施されたため、安定した組織運営ができた。 ●取組実施後の反省・改善を見出すための取組（アンケートなど）が不十分だったため、取組の評価項目まで含めた計画をする。	◇教職員間の情報共有、管理職への報告・連絡・相談などの行い方（ルール）については、年度当初に再確認し、共通理解を図っておく。 ◇各分掌でPDCAの統一チェック項目を設定し、改善の質を高める。 ◇各部長がリーダーシップを発揮できるように、1年間の具体的なビジョンを持たせ、取り組ませることが必要。 ◇行事や取組後のアンケートの実施を必ず行い、客観的な評価をもとに改善が図れるようにする。
	2	各部・各係・組織の役割や仕事内容・範囲が明確にされている。	38.9%	61.1%	0.0%	0.0%	3.4	↘	3.6			
	3	各部・係の取組のPDCAサイクルを実施し、取組の改善を図っている。	22.2%	66.7%	11.1%	0.0%	3.1	↘	3.3			
	4	管理職に対する報告・連絡・相談体制がとれている。	38.9%	55.6%	5.6%	0.0%	3.3	↘	3.7			
	5	教職員間の情報共有と組織的な協働体制がとれている。	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	3.7	↗	3.4			
教育課程	6	年間指導計画に沿って、計画的に教科等の授業を行っている。	43.8%	50.0%	6.3%	0.0%	3.4		3.4	3.1	○年間指導計画に基づき計画的に授業が行えた。 ○補充学習等を計画的に実施することで、基礎基本の定着につながった。 ○地域資源を活用した学習活動が充実し、学年に応じた体験学習が継続して実施できた。 ○ICT活用が学年間で定着しつつあり、授業改善につながることができた。 ●「めあて設定」と「まとめ」のつながりが弱く、児童の振り返りに差が見られた。	◇「めあて→活動→まとめ」の共通フォーマットを導入し授業改善を図る。 ◇授業チェックシートを活用し、個別最適な学びに関する工夫点を共有する。 ◇授業力を身に付けるための研修を計画的に行う。 ◇地域の一と・もの・ことを計画的に活用していくために、総合的な学習の時間の年間指導計画の見直しを行い、時期や内容を吟味する。
	7	学習のめあてを設定し、まとめと統合した学習指導を行っている。	12.5%	75.0%	12.5%	0.0%	3.0	↘	3.1			
	8	教育活動のねらいを明確にし、児童に目標をもたせての参加・振り返りができている。	12.5%	68.8%	18.8%	0.0%	2.9		2.9			
	9	地域の一と・もの・ことを活用した学習活動を工夫することができている。	29.4%	52.9%	17.6%	0.0%	3.1		3.1			
	10	授業にICTを効果的に活用し、わかる授業づくりに努めている。	23.5%	70.6%	5.9%	0.0%	3.2	↘	3.3			
危機管理	11	危機管理マニュアルにおける分担と役割を理解している。	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%	3.0	↘	3.1	3.3	○毎月の安全点検の定例化や交通安全指導により、重大事故ゼロを維持できた。 ○引渡し訓練は年度を重ねるごとに改善されているが、より実践的な訓練ができるように継続していく必要がある。 ●校舎の老朽化が進み、現代を生きる児童の学習環境に適さないものがある。	◇危機管理マニュアルを行事と連動させて確認する機会を設け、定着を図る。 ◇未然防止の意識化を行っていく必要がある。 ◇児童同士でも自分たちで安全に過ごせるよう、判断したり、互いに声掛けしたりできるようにする必要がある。
	12	安全や危機に対する指導・教育を児童に適宜行っている。	41.2%	52.9%	5.9%	0.0%	3.4	↘	3.5			
	13	建物・設備・遊具の安全点検や修理等を行っている。	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	3.6		3.6			
人権教育	14	児童一人一人の人権を大切に指導・対応を行っている。	41.2%	52.9%	5.9%	0.0%	3.4	↘	3.6	3.2	○少人数、習熟度別授業による算数科の授業や補充学習など、個に応じた指導など、組織的に取り組みを行うことができた。 ○人権教育、道徳科の学習を通して、自分や相手を思いやることの大切さについて理解できる児童が増えてきた。 ●言葉づかいの指導については指導を行っているものの、改善が見られない状況である。家庭にも協力を依頼し続き指導を行っていく必要がある。 ●丁寧な言葉遣いを身に付いていない児童は社会性や人権感覚に課題も見られる。	◇あたたかい言葉かけやコミュニケーション能力の向上など、発達段階に応じた人権感覚を養うための学級活動や道徳科学習の充実を図る。 ◇人権教育学習教材集「かがやき」「あおぞら」などを活用し、個別の人権課題に対する学習を進め、自他の人権を大切にできる子どもの育成に努める。 ◇学校・家庭の連携を強化し、TPOに合わせた言葉づかいができるよう指導を行う。
	15	日々の授業で、個に応じた指導など指導方法の工夫や改善を行っている。	31.3%	50.0%	18.8%	0.0%	3.1	↘	3.4			
	16	学力の基礎・基本の定着を図るための具体的な手立てを工夫している。	25.0%	56.3%	18.8%	0.0%	3.1	↘	3.3			
	17	児童の人権感覚や豊かな心を育てる取組を工夫している。	25.0%	62.5%	12.5%	0.0%	3.1	↘	3.2			
	18	丁寧な言葉づかいや名前を呼び捨てにしない指導を行っている。	41.2%	47.1%	11.8%	0.0%	3.3	↗	3.1			
生徒指導	19	児童一人一人の居場所がある学級集団づくりができている。	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	3.3	↗	3.1	3.3	○生徒指導、不登校案件に対して学校全体で組織的に対応する仕組みが整ってきた。 ○生徒指導案件があった場合は臨時の対策委員会を開き対応について協議することができた。 ○あたり前のことをあたり前にできるように学校全体で統一した指導を行うことができた。 ●アンケートや担任に不登校や悩みを訴えてくる児童に対して、丁寧に対応することが大切である。 ●きまりや規律を守ること（規範意識）は、集団づくりでも大切であることを折に触れて児童に指導する必要がある。 ●持ち物の指導など保護者への働きかけが必要である。	◇児童一人一人のよさを認め、自己肯定感や有用感、充実感を味わわせるような授業や活動、声かけを推進する。 ◇規範意識の醸成を図るために、教職員が一貫した指導を行い、家庭との連携を図っていく。 ◇挨拶運動や廊下歩行などについては、児童発信の取組として仕組んでいく。 ◇忘れ物、落とし物が非常に多い状況。学習参観、PTA活動時に保護者に確認してもらうだけでなく、定期的に確認できるように学級に回していく。
	20	挨拶や学習の準備・整理整頓など、基本的な生活習慣の定着を図っている。	35.3%	41.2%	23.5%	0.0%	3.1		3.1			
	21	学校のきまりや社会規範を守る指導を行っている。	41.2%	58.8%	0.0%	0.0%	3.4	↗	3.3			
	22	様々な場で児童一人一人のよさを認め、自己肯定感や有用感を味わわせている。	35.3%	64.7%	0.0%	0.0%	3.4	↗	3.3			
	23	不登校やいじめ問題に対して未然防止・早期発見・早期対応など組織的な対応を行い、職員間で共通理解を図っている。	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	3.5		3.5			
	24	生徒指導に関する関係機関との連携・協力を積極的に行っている。	23.5%	70.6%	5.9%	0.0%	3.2		3.2			
研修	25	公開授業研究を年1回は実施し、仮説・着眼の有効性を検証することができている。	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	3.8	↗	3.5	3.3	○研修で学力テストの分析から課題を共有し、方策について協議することができた。 ○校内研究で教師が主体となって話し合える場が作れたことがとてもよかった。 ●キャリアステージに応じた研修の奨励がなかなかできていない。	◇標準学力検査の結果をもとに、今年度の方策の有効性について検証し次年度の学力向上策に反映させていく。 ◇個々のスキルアップを目指して、キャリアステージごとの研修テーマを設定し、年間1回の校外研修参加を必須化する。
	26	学力テスト等の結果を分析し、実態と課題に応じた学力向上の取組を行っている。	31.3%	62.5%	0.0%	6.3%	3.2		3.2			
	27	職員は校外の研修等に積極的に参加し、自己研鑽に努めている。	29.4%	41.2%	29.4%	0.0%	3.0	↗	2.9			
その他	28	学校は校舎内外の清掃が行き届き、掲示物をこまめに取り替えている。	16.7%	72.2%	11.1%	0.0%	3.1	↘	3.3	3.2	○指導の徹底により校舎内外を清潔に保つことができた。 ○次年度の時程を見直し、業務の効率化を図り、授業準備時間の確保につなげる準備を整えることができた。 ●ICT活用術に個人差があるため、学校全体を通した改善につながっていない。	◇通信やHP等を活用し積極的に学校の情報を発信する。 ◇学級通信を利用して定期的に子どもたちの様子を保護者に発信できるようにする。 ◇働き方改革の目的を再確認し、教育活動の充実を目指すしていく。
	29	働き方改革の意義をふまえ、業務の改善・効率化に取り組んでいる。	23.5%	58.8%	17.6%	0.0%	3.1	↗	2.9			
	30	通信や家庭訪問、懇談等を通して家庭・地域と連携して児童の健全育成に努めている。	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	3.5	↗	3.1			

4 ……達成できた（80%以上）
2 ……あまり達成できなかった（40～59%）
3 ……だいたい達成できた（60～79%）
1 ……達成できなかった（40%以下）